

抗インフルエンザウイルス薬予防投与の説明と同意書

1 目的

- ①インフルエンザ発症者と濃厚な接触があったと考えられる方(48時間以内に抗インフルエンザウイルス薬を予防投与することで発症の確率を下げることが証明されています)
 - ②高齢者や持病があるなど、インフルエンザにかかると重症化しやすい方
 - ③入学試験や面接など、人生の重要なイベントを控えている方
- 上記に当てはまるため、発症の予防やインフルエンザの感染の拡大を防止する目的で抗インフルエンザウイルス薬の投与を推奨します。

2 有効性

抗インフルエンザ薬は、体の中でインフルエンザウイルスが増えるのを抑える作用があります。抗インフルエンザ薬を予防的に内服していると、インフルエンザに感染しても体の中でウイルスが増えにくくなるため、結果としてインフルエンザの発症を予防できます。

(1) オセルタミビル (タミフルOR)

国内で実施された臨床試験で、インフルエンザ感染症発症率はオセルタミビル投与群 1.3%、プラセボ(偽薬)群 8.5%と予防効果が確認されています。

(2) ザナミビル (リレンザOR)

18歳以上の医療従事者を対象とした国内試験で、インフルエンザ感染症発症率はザナミビル投与群 1.9%、プラセボ(偽薬)群 3.8%と予防効果が確認されています。

(3) ラニナミビル (イナビルOR)

患者の同居家族又は共同生活者(10歳以上)を対象とした国内試験で、40mgを単回吸入投与した時のインフルエンザ感染症発症率はラニナミビル投与群 4.5%、プラセボ(偽薬)群 12.1%と予防効果が確認されています。

3 内服による副作用

(1) オセルタミビル (タミフルOR)

悪心、腹痛、下痢など胃腸障害、まれにショック、アナフィラキシー様症状、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症、多形紅斑、肝機能障害、精神・神経症状、血小板減少など

(2) ザナミビル (リレンザOR)

過敏症による発疹、悪心、嘔吐、下痢などの胃腸障害、まれにショック、アナフィラキシー、呼吸困難、気管支痙攣、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症、多形紅斑など

(3) ラニナミビル (イナビルOR)

過敏症による蕁麻疹や発疹、胃腸炎、悪心、嘔吐、腹痛、下痢、口内炎などの胃腸障害、まれにショック、アナフィラキシー、呼吸困難、気管支痙攣、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症、多形紅斑など

同意書

医療法人社団ビーンズ 御中

私は、抗インフルエンザウイルス薬の予防投与について、

- ・ 医師から予防投与の目的、有効性、内服による副作用について
- ・ 医薬品の適応外使用となりますので、全額自費になるとともに、医薬品副作用被害救済制度の対象外となること

以上の点について、医師の説明を受け、同意しました。

年 月 日

患者様氏名（署名）： _____

※患者様が未成年者の場合は、以下へ別途保護者の署名をお願い致します。

保護者氏名（署名）： _____（続柄） _____

説明医師名（署名）： _____